橿原市立図書館だより

平成26年10月25日
第31号

橿の樹

認知症を理解しよう
P2～3

読書の秋イベント
P4～5

図書館員の本棚
P6

お知らせその他
P7～8

認知症を理解しよう

手がかりのための100冊

アルツハイマー月間（9月）にちなみ、社会福祉協議会と図書館の連携図書展示「認知症を理解しよう」を、9月2日より図書館1F資料展示コーナーで実施しました。（約100冊　月末まで）　このページは、展示・貸出促進に供したブックリストを抄録したものです。新刊図書については、橿原市社会福祉協議会より現物提供を受けました。提供された図書は、今後も図書館の所蔵資料として閲覧や貸出に供されます。

認知症とわたしたち	朝日新聞取材班	朝日新聞出版
母の日記	秋川　リサ	NOVA出版
認知症を知る	飯島　裕一	講談社現代新書
認知症予防の簡単エクササイズ　体を動かしながら、脳を鍛える！	島田　裕之　監修	NHK出版
認知症のベストチョイス　予防・改善・介護に希望が持てる！（生活シリーズ）	NHK「チョイス＠病気になったとき」番組制作班	主婦と生活社
アルツハイマー病を治せ！　〝認知症800万人〟時代の処方箋	NHKスペシャル取材班	主婦と生活社
老後の健康　医者だけが知っている新しい常識	文藝春秋編	文藝春秋
認知症明日へのヒント	読売新聞「認知症」取材班	中央公論新社
介護家族を支える電話相談ハンドブック家族のこころの声を聴く60の相談事例	角田　とよ子	中央法規出版
よくわかる認知症の教科書	長谷川　和夫	朝日新聞出版
老後の真実　不安なく暮らすための新しい常識	文藝春秋編	文藝春秋
アルツハイマーはなぜアルツハイマーになったのか　病名になった人々の物語	ダウエ・ドラーイスマ	講談社

情報や事例から広く学ぶことで、問題解決への糸口が見つかるかもしれません。右ページの新着図書とともに、既存の所蔵図書の中からも様々な分野の関連図書を選びました。下記はその抜粋です。

親が70歳を過ぎたら読む本	村田　裕之	ダイヤモンド社
介護をはじめるときに読む本	下　正宗　監修	成美堂出版
認知症マネーまるわかりガイド	相続・後見マネー塾	アールズ出版
認知症家族のこころに寄り添うケア	松本　一生	中央法規出版
認知症よい対応・わるい対応	浦上　克也	日本評論社
家族のココロを軽くする認知症介護お悩み相談室	長田　久雄	中央法規出版
家族の認知症に気づいて支える本	斉藤　正彦　監修	小学館
ムリをしないで親の認知症とつきあう方法	神定　守	WAVE出版
患者さんとご家族から学ぶ認知症なんでも相談室	国立長寿医療研究センター　編	メジカルビュー社
若年認知症　本人・家族が紡ぐ7つの物語	若年認知症家族会　編集	中央法規出版
自分で防ぐ・直す認知症・アルツハイマー病	帯津　良一　監修	法研
認知症介護に行き詰まる前に読む本	多賀　洋子	講談社
アルツハイマー病とは何か（角川SSC新書	岡本　卓	KADOKAWA
親の認知症が心配になったら読む本	小川　陽子	実務教育出版
誤解さえしなければ認知症は怖くない！	奥村　歩	阪急コミュニケーションズ
よくわかる認知症ケア	杉山　孝博	主婦の友社
認知症の9大法則50症状と対応策	杉山　弘道	法研
第二の認知症　増えるレビー小体型認知症の今	小阪　憲司	紀伊国屋書店

図書館 読書の秋イベント

10/25㊏～11/9㊐　秋の特別貸出

図書・雑誌　１人１０冊以内（通常５冊）
視聴覚資料　１人　４点以内（通常２点）
貸出期限は ２週間 です（期限は通常どおり）

赤ちゃんが「絵本」と であったら

11/1㊏

絵本で赤ちゃんとスキンシップ！
おひざでだっこで赤ちゃんと一緒に楽しみながら絵本を紹介します。

日 時 ： １１月1日（土）１３：００～１４：００まで
場 所 ： かしはら万葉ホール ４階 視聴覚室
講 師 ： 橿原市図書館ボランティアの会　代表　西村洋子さん
対 象 ： 乳幼児と保護者　３０名（申込順）
申込方法 ： 電話か図書館１階カウンターで 10 月４日（土）から受付

第2回 ビブリオバトル -知的書評合戦-

11/3㊗

発表者は各自の書評を紹介、観戦者がその中から最も読みたくなった本に投票し、チャンプ本を決めるイベント！今回のテーマは「秋」です。

日 時 ： １１月３日（祝・月）１４：００～１５：３０
場 所 ： かしはら万葉ホール １階 多目的ロビー
講 師 ： 橿原ビブリオバトル部
対 象 ： 高校生以上の個人　発表者６名、観戦者２５名（各申込順）
〔発表者は「秋」をテーマに本を決めてください〕
申込方法 ： 電話か図書館１階カウンターで 10 月４日（土）から受付
※観覧のみの方は、当日参加できます

子どもの育ちと本 ～心を育む絵本とわらべうた～

長年地域で絵本に関わってきた講師が子どもの成長に沿った絵本やわらべうたを紹介します。子どもと一緒に楽しめるおはなし会もあります。

11/7㊎

日 時 ： １１月7日（金）10：30～１１：30
場 所 ： 図書館 １階 おはなし室
講 師 ： 橿原文庫連絡会
対 象 ： 一般（未就学児と入室可）　３０名（申込順）
申込方法 ： 電話か図書館１階カウンターで 10 月 25 日（土）から受付

11月はおはなしイベントがいっぱい！

いつもの土曜日は子どもだけのおはなし会だけど、☆の日は大人も参加できちゃいます！　語り手の声に耳を傾けて･･･心地よくて･･･楽しいおはなしたち･･･子どもと一緒に体験しませんか！

場所：図書館　1階　おはなし室、　定員：30～40名（当日先着順）

11月1日（土）
☆15:00～大人もいっしょにおはなし会：3歳～大人

11月8日（土）
☆14:00～みんなで きて みて おはなし会：3歳～大人
15:00～おはなし会（小さい子の日：3～5歳）

11月15日（土）
15:00～おはなし会（大きい子の日：小学生以上）

11月22日（土）
☆14:00～ちょっと大人のおはなし会：小学校高学年～大人
15:00～おはなし会（大きい子の日：小学生以上）

11月29日（土）
☆15:00～大人もいっしょにおはなし会：3歳～大人

赤ちゃんと保護者のためのおはなしは毎月第２、４水曜日！
パパもママも赤ちゃんだって！絵本を楽しみたい！

11月12日（水）
①11:00～②11:40～　赤ちゃんとおはなし会
２部制で①と②は同じプログラムです。定員は各25名です。

11月26日（水）
10:00～12:00　絵本の時間
読み聞かせや絵本の紹介をします。時間内はいつでも入退室できます。

図書館員の本棚（17）

庄野　潤三　　著　「秋風と二人の男」

庄野　潤三　（1921～2009）

小説家、大阪市生まれ。九州帝国大学法文学部卒。旧制中学在学中に伊藤静雄の知遇を得る。
教員、放送会社員等を経て作家活動に入る。日本芸術院会員。
「夕べの雲」（読売文学賞）
「紺野機業場」（芸術選奨文部大臣賞）など著作多数。

この作家の代表作には、芥川賞を受けた「プールサイド小景」や新潮社文学賞を受けた「静物」など、戦後の日本文学を代表する名作がありますが、それ以外の小さな作品にも、忘れがたい佳作がいくつもあります。第三の新人のひとりとされる作家は、すでに文学史上の存在ですが、現代を代表する村上春樹や江國香織といった人気作家の中にも、庄野作品の愛読者が少なくないのです。

「巻ずしというのは、うまそうなものだな」印象的な台詞とともに、物語は始まります。主人公の蓬田（あいだ）が、細君の台所仕事を観察しています。

「座敷から持ってきた机の上に材料一式がのっている。板の間に座った細君の右手にすし桶がある。今年の春、細君が百貨店で買った椹（さわら）のすし桶で、木の色がまだ新しい。酢の入った水に一昼夜ひたして、あく抜きをやってから、蓬田（あいだ）のお袋の命日に田舎ずしをつくって使い始めをした、そのすし桶である」 こんな風に、寿司を巻く描写が続いてゆきます。「端っこのところが、具が多くてごはんが少ないので特においしい」 ほほえましい会話が、中年夫婦の間に交わされます。

ところが、せっかくの巻ずしを、蓬田（あいだ）は家族と夕食で味わうことができません。旧友と再会するために外出することになるからです。旧友は、この春に細君を亡くして、今は高校生のひとり娘と二人で暮らしている大学教員です。「高校生の娘は、あれこれと、父親の世話を焼くだろうが、すしを巻くことはないだろう」 そんな想像をしながら、蓬田はすしを折詰にして、秋風が吹き始めた都会の酒場へ持参します。

地下のビアホールで、旧友の芝原と再会し、青年時代を共有した者どうしの気の置けない会話が始まります。タイトルになっている「ふたりの男」とは、主人公の遭田と、その友人の芝原のことです。

「この前、本を買いに出たら、おいしそうなフランスパンを売っていたので買って帰ったんだ。その晩、ウイスキーをやりながら、そのフランスパンを食べた。バタをつけて食べると、塩味が利いていて、うまいんだ」 芝原が話し始めます。「ところが、手で小さくちぎってたべるのが面倒になってかたまりのまま口へ入れて、食いちぎろうとした。するとなんだか大きな音がして」
「どうしたの、おとうさん」うちの子がびっくりした顔をして見ている。「勢い余って、自分のさし歯を、自分で噛み砕いてしまった……」。そういって、友人の芝原は屈託なく笑います。

家族は、ひとりでは成立しません。そういった意味で、父と娘ふたりきりの友人宅は、最も小さな家族といえます。大きな柱を失った小さな家族が、互いに寄り添って痛手から回復しようとしている。苦しみや悲しみを、さりげないユーモアに変換できる友人の理知的な雰囲気や、少しさびしげな、けれど温かい父娘の様子など、読み手の読解力に応じていくつもの扉が開かれる、奥行きのある美しい作品だと思います。

終盤に、こんな場面があります。ある海水浴場の回想です。男たちもその家族もまだ若く、死者も健在であった頃、互いに連れ立って出かけた思い出深い場所です。「世のなかに変わらないものはない。そういう覚悟で暮らしているが、去年みたのと同じ景色が見えると、思わず見入ってしまう。ぼくらがそこを通るときが、また一番いい時期だ、一番暑いさかりだから。夢のような美しさというが、陽が強いから、あんなに見えるのだろうな」

人生を四季にたとえると、男たちはすでに秋の住人です。過ぎ去った人生の夏と作品のタイトルが、二重写しとなって読者に提示されます。

ところで、冒頭のあの巻きずしはどうなったのでしょうか。気になる方は、ご一読ください。

「散歩道から」
庄野　潤三　著　　講談社

「貝がらと海の音」
庄野　潤三　著　　新潮社

＊「秋風と二人の男」は「庄野潤三全集第５巻」（講談社）その他に収録されています。

「かしはらのむかしばなし」が発行されました

盗賊から恩人の長者一家を助ける「きたばやしのたぬき」と、天の香具山と岩戸伝説に由来する「天の岩戸と七本竹」。

再話は、地域文庫世話人の岡林巧子さんと、苑樹慶子さん。作画は奈良芸術短期大学出身の堀見日紗子さんと南口とまとさんがそれぞれ担当しました。また、解説については、橿原市観光ボランティアガイドの会会長の木村三彦さんが寄稿されています。

非売品で、関連先のみに配布されましたが、県内の公立図書館の多くで閲覧や貸出ができます。

橿原市立図書館が所蔵する郷土資料関連図書の収載内容をもとにして、むかしばなし絵本「きたばやしのたぬき」と「天の岩戸と七本竹」が発行されました。

発行者は橿原ライオンズクラブ。設立５０周年事業のひとつとして、市内の地域文庫や奈良芸術短期大学関係者、橿原市観光ボランティアガイドの会や地元関係者の協力を得て、市内の伝承を小型絵本にまとめられました。２冊とも、橿原市立図書館内での閲覧と館外貸出ができます。図書館にある他の収録図書の内容と読みくらべるなど、様々な楽しみ方があるのではないでしょうか。

図書館ボランティアを募集しています。

館内での読み聞かせ、ブックスタート会場での来場者対応、
汚破損図書の修理などにご参加いただける方を募っています。
詳細は、直接図書館までお問い合せください。

◆ おはなし班
図書館おはなし室、図書館行事などで、子どもたちに絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演など。

◆ ブックスタート班
１歳6ヶ月児健康診査会場（保健福祉センター）で、受診者の幼児とその保護者に絵本の読み聞かせや各種のお知らせ紹介など。

◆ 修理班
館内の作業室で、所蔵図書の清拭や修理など。

（ブックスタート会場での読み聞かせ風景）

申込・問合せ　図書館カウンターまで

橿原市立図書館

〒634-0075
橿原市小房町１１－５

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-29-1011

http：
//www.city.kashihara.jp/
toshokan

編　集　後　紀

図書館の昨今

変化を求められる中で、伝統的なサービスのみに終始する時代は終わったのかも知れない。そのことに、戸惑いがないわけではないが、視線を外にも向け、視野を広く確保しなければならないことを、図書館関係者の多くが気づき始めている。取組の幅が広がることで、予算や人材などの課題も尽きない。一朝一夕には解決や改善が難しい問題にも、失敗や停滞を恐れずに地道に取り組む根気が必要になってくるだろう。▼図書館という職場ほど、自らの無知を思い知らされる場所はない。個人の知識や経験は、それが本人にとっては大きなものであったとしても、図書資料に収録されている膨大さや深遠さに比べれば、小さくささやかな存在……。レファレンスのカウンターや蔵書管理の端末席で、自らの無知と世界の広大さについて日々教えられる……。そのくりかえしが、図書館員の日常と言えるだろう。そうした中で、自らが謙虚であることを確認し、優れた知見、最新の情報、高い芸術的価値のために奉仕できる光栄を、働くことのよろこびに結びつけられる職場なのではないだろうか。▼団体貸出、ボランティアの方々の参画、市立学校の先生方や読書関連団体の方々との連携、子どもたち自身による読書案内や利用者参加型の催事、スポンサー制度の導入など、力を貸してくださる方々や参加してくださる皆さんに感謝しながら、連携先のお立場やご事情に対して謙虚さを忘れないでいたい。

（編者）

橿原市立図書館の利用状況 （平成25年4月～26年3月末）

個人貸出について

新規登録者数	成人（16歳以上）	1，415　人
	児童（15歳以下）	1，197　人
貸出数	一般書	252，099　冊
	児童書	176，215　冊
	雑　誌	25，734　冊
	視聴覚	17，677　点
	個人貸出数合計	471，725　点
予約受付数	一般書（含雑誌）	25，695　冊
	児童書	4，577　冊
	予約数合計	30，272　冊
リクエスト数	一般書	4，577　冊
	児童書	79　冊
	リクエスト数合計	4，656　冊

資料数について

一般書（個人貸出用）	187，188　冊
児童書（個人貸出用）	61，957　冊
個人貸出用図書合計	249，145　冊
一般書（団体貸出用）	6，481　冊
児童書（団体貸出用）	29，038　冊
団体貸出用図書合計	35，519　冊
参考図書	10，786　冊
市政・郷土資料	6，213　冊
図書資料合計	301，663　冊
ビデオテープ	1，859　点
DVD	331　点
コンパクトディスク	3，764　点
カセットテープ	395　点
雑誌	125　誌
新聞	14　紙

表紙の写真

夏休み子どもワクワク体験学習のプログラムのひとつ、「図書館のお仕事体験」のひとコマ。検索端末機OPACを操作して、レファレンスサービスの模擬演習が行われました。